

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 10 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200079		
法人名	社会福祉法人 みどり会		
事業所名	グループホーム府中みどり園		
所在地	広島県安芸郡府中町浜田1丁目6番7号 (電話) 082-281-6700		
自己評価作成日	平成25年7月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年8月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「府中みどり園を自分が年をとった時に生活したい場所として思えるよう」という理念にあるように、理念を具体化するために、『もしも自分だったらノート』を作成し、スタッフが毎月、理念に基づき、目標を立てて実行している。入居者様の外出にも力を入れていて、個別にアルバムを作成してご家族に喜ばれている。また、地域で認知症ケアに取り組もうと考え、府中町グループホーム連絡会を昨年末につくり、町内のグループホーム合同行事や、スタッフの合同研修なども行われている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム府中みどり園（以下、ホーム）は、入居者一人ひとりの思いに耳を傾け、職員全体で情報共有しながら、法人理念、基本方針に沿った支援を追求していく姿勢で取り組まれています。ホームでの生活が、入居前の生活の延長線として過ごせるよう、個々のこれまで培ってきた人間関係、社会との継続をめざし地域交流に努められています。また、地域の福祉サービス向上に向けた取り組みにも力を入れておられます。外部研修や内部研修にも力を入れ、職員の知識や技術レベルの向上に努め、理念が浸透し実践に繋がるよう全体の意識統一を図られています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（えんどう豆）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「もしも自分だったらノート」を活用し理念に基づいた月間目標を立てて、1か月に1度のミーティングで振り返りをしている。	「もしも自分ノート」を活用し、職員全体が常に理念を意識し、実践に繋げていけるよう取り組まれています。入居者一人ひとりの思いを丁寧に汲み取り、職員は自分自身に問いかけながら個々に目標を立て支援に努めておられます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月、地域の幼稚園の園庭解放、ふれあい福祉センターのだんだんサロンにお連れしている。	町内会に加入し、祭りやとんどなど地域の行事に積極的に参加されています。また、ホームの行事にも地域住民の参加があり、入居者と住民との交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設長が、入居者様と小学校の前で朝のあいさつ運動をしている。管理者同士が昨年末から「府中町GH連絡会」をもち、地域に向けて認知症介護の相談会をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度運営推進会議を開催している。最近、他の事業所のグループホームの管理者も参加するようになった。活動内容の報告などをして、ご家族から出た意見など運営に反映させている。	会議を2か月毎に開催し、家族、地域代表者、町担当者、民生委員、地域包括支援センター職員、他法人のグループホーム管理者などの参加があります。会議では、運営状況の報告を行い、質問や意見、要望を受けておられます。災害時の対応について参加者から質問が出され、年4回の広報紙に防災活動の報告に繋げておられます。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	府中町は事業者懇談会を2か月に1度開催し、府中町の役場、事業所が日頃からつながりをもつように活動している。管理者もここに参加している。	市町と協力し「府中町グループホーム連合会」を結成されています。福祉サービスの向上に地域全体で取り組められるよう市町と連携を図るなど、努力されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居者1名の方に関して、医師の指示と家族の強い要望があり、転倒を防ぐ目的で壁側の反対側は2本柵をしており、身体拘束の記録をつけている。</p>	<p>身体拘束をしないケアについてマニュアルを作成し、研修を実施されています。職員全体でその都度確認し合いながら、意識統一を図られています。現在、危険防止のためベッド柵を使用する入居者がおられますが、家族への十分な説明と話し合いを行い、同意を得たうえで実施されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全体会議にて施設長が講師で、研修を実施した。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ユニットミーティングで管理者が研修を実施した。今、えんどう豆ユニットでこの制度を利用されている方はおられない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に重要事項、契約書を本人様、家族様に説明を行い、疑問点もお伺いしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時には本人様の様子をお伝えして話しをお伺いしている。6か月に1度のカンファレンスにおいても、話しを聴かせて頂き、プランに活かしている。</p>	<p>家族の来訪が多く、マイスリッパをホームに置かれている家族もおられます。面会時に直接意見を聞かれています。また、出された意見や要望は申し送りやケア会議などで職員全体で検討し、運営に反映するよう取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常日頃、話しは聴いており、1年に1度のスタッフ全員面談、6カ月に1度の考課面談を実施している。スタッフ全員の意見をくまなく反映はできていない。このため、8月は1か月をかけて、ケア会議、自己評価面談を実施中。	日頃からコミュニケーションを図り、その都度意見や提案を聞かれています。毎月のミーティングや「しゃべりバー」、個人面談などで意見を伝える機会を設け、職員一人ひとりの思いに耳を傾けながら、運営に活かせるよう法人全体で取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働時間は改善傾向にはあるが、入居者様の対応にて定時で終わることは難しい。法人にて、研修会、勉強会などがあり、向上心がもてる環境とはなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の全体会議、外部研修にも頻繁に参加してもらっている。法人内では、ケアマネ勉強会、介護福祉士勉強会などもあり、皆で勉強をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が府中町グループホーム連絡会に参加しており月に1回、会議を開催。本年度は、合同研修、入居者様スタッフ参加の合同七夕会、スタッフ交換研修などこの1年はかなり活発に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者対応が一番大切であり、最初の関わりはとて重要にしている。積極的に話しを聴きながら、好きなことに着目して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にはご家族の思いを聴きとり、面会時には特に話し合いの場を多くもつようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族やご本人に思いを聴きながら、その時、その時に必要なことをさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事などをして頂いたり、買い物には毎日付き添ってもらったり、洗濯ものを干して頂いたり、それぞれに役割を持って頂いているが、すべての入居者様に出来ているわけではない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	「帰りたい」気持ちの強い方については、ご家族にその都度電話をさせて頂いて、お話してもらったり、食事を食べられない方については、ご家族に頻繁に面会に来て頂いて食事を一緒に食べて頂いたりという支援をして、ご家族も一緒にご本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	よく行かれていたスーパーや、昔なじみのおかきやさんへお連れしたり、また、以前住んでいた家のご近所の方と話しをしたりしている。	ホームでの生活が入居前の生活の延長線となるよう、友人宅への訪問や墓参り、選挙投票など、その人の生活習慣が当たり前のように継続できる支援に努められています。これまで培ってきた人間関係や社会との関係が途切れない支援をめざし日々取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	えんどう豆ユニットの入居者様とそら豆ユニットの入居者様とで仲のよさそうな方同士でお話してもらえるような支援をしたりしている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	亡くなられた後もご自宅へ伺い、仏壇に手を合わせたりしながら、ご家族の話を聴いて、グリーフケアをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	入居者の担当スタッフが話を聴かせて頂しながら、意向の把握をしてアセスメントを作成している。	「言葉かるた」「ほっこり一言」などを実施するとともに、日々の会話から入居者の思いや意向を読み取り、得た情報を記録に残し、実現に向けて取り組まれています。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	入居前に生活歴などをお聴きして訪問記録に詳しく記入し、全スタッフが把握している。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	介護記録、申し送りにて把握できている。24時間シートを作成し、その人の時間を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当スタッフが本人様のアセスメント作成、計画作成者が家族側の意向も含めケアプラン作成をしている。ユニット会議で話し合いの場をもちはじめた。</p>	<p>担当職員を中心に、本人や家族の意見を聞きアセスメントシートを作成されています。記録をもとに、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成されています。作成した計画は、職員全体で話し合い共有されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>モニタリングは計画作成者が行うが、スタッフ全員が記録した日々の記録を活かしつつ行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>同じ施設の中に特養、デイサービスなどがあり、フロア内を行ったり来たりすることも出来る。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>入居前からの行きつけの美容院、行きつけのスーパー等に出かけたり、地域の園庭解放や、サロンにお連れしたりしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎週金曜日に主治医の往診がある。グループホームの看護師より入居者の方の状況をお伝えしている。</p>	<p>協力医療機関や併設事業所の看護師と連携し、入居者の健康管理に努められています。入居前からのかかりつけ医で受診する入居者もホームのかかりつけ医に診てもらい、緊急時に適切な対応が受けられるよう情報共有されています。</p>	
		<p>○看護職員との協働</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	グループホームの看護師に伝えてすぐに対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、スタッフ看護師がお見舞いに行ったり、病院相談員と管理者が常に連絡をとり、状況把握し、退院が出来るように働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現在2名のターミナルケアの方がユニットで生活されている。家族との話し合いをしながら、看取りの同意書を取り、ご本人にとっての良い看取りについて、スタッフで話し合っている。	重度化した場合の対応に関する指針を作成し、家族に説明されています。これまでにホームでの看取り経験があります。重度化した場合は、主治医や看護師、家族とその都度話し合いを重ね、チームでの支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	初期対応の訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2, 3か月に1度、避難訓練をしている。また、食事委員会では、備蓄品などについて検討している。さらに、入居者の方のお身体の状態、避難順位についてはスタッフルームに設置してある。	地域と防災協定を交わされています。消防署立ち合いのもと、地域住民の参加を得て避難訓練を実施されています。法人では、万が一の事態に備えて、備蓄品について話し合いが行われており、自販機を設置することで業者から水のペットボトルを支給してもらえる利点や非常事態には自販機にある飲み物を取り出せるようにするなどさまざまな対策を考えておられます。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	出来るだけ、敬語で、尊厳を守り対応しているが、時折、言葉かけについては、敬語になっていない場面も見られる。	接遇研修や会議で繰り返し確認し、意識統一を図られています。また、「もしも自分ノート」を活用し、細かい支援の実践にも繋げておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望、希望はなるべく生活の中に取り入れるよう、努力している。何が食べたいか、どこへ行きたいかなど、日常の支援の中で聞きとり、実現するよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた生活を支援していくことについて努力しているが、まだまだ出来切れていない場面も見られ、課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	おしゃれがお好きな方が多いので、髪を編んだり、マニキュアをさせていただいたり、また、着る物が汚れやすい方については、その都度、着替えをさせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	数名の方に食事づくりのお手伝いをして頂いている。	食事は手作りで、その日に献立を決めておられます。週1回、お刺身の日を設け、魚屋から新鮮な刺身を調達し提供されています。入居者の希望に応じ、ラーメンやお好み焼きなどの外食の楽しみもあります。職員と入居者が一緒に、買い物や調理、後片付けを行い、楽しんで食事できるよう支援されています。	
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	りんごジュース、ピルクル、コーヒー、ココアなど好きな飲み物を飲んで頂いている。生活記録表に飲まれた量などを記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ユニットケアでは、必ずしも1日3回の口腔ケアではなく、その人の習慣に合わせた口腔ケアをするようにということで、夕食後だけの方も居れば、毎食後の方もおられる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	4月よりトイレ委員中心に布パンツ中心にするようにしている。現在、日中夜間ともリハビリパンツの方は1名、夜間のみの方は1名となった。	一人ひとりに対して、きめ細かい排泄支援が行われています。パッドのサイズの見直しを常に行い、現状に応じた対応がなされています。トイレ内の抜き打ちチェックを実施し、清潔感のあるトイレ環境をめざし、入居者が気持ちよく利用できるよう配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	いも、ヨーグルト、バナナを多くとってもらうようにしている。なるべく、薬に頼らないようにトイレ委員を中心に努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	お風呂は3日に1回くらいになっている。血圧の関係で午前に入られる方1名、その他の方は14時から17時の間で入っている。1名のターミナルケアの方は1階の木のお風呂に入っている。	入浴は、入居者の希望が尊重されています。本人のタイミングに合わせて入浴できるように、浴室は何時でも使用可能な状態にされています。年2回の「お風呂祭り」では、法人施設に設置されている青森ひばで造られた浴槽での入浴を楽しむなどの企画もあり、この度はバラ風呂を実施し、入浴を楽しまれています。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	もともと、起きる時間、寝る時間はその方に合わせて支援している。夕方くらいから帰りたくなったり、不安になられたりする方もいるが、その都度お話しして、落ち着いて頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ユニット内本人様のファイルに薬事表が綴じられている。スタッフはそれを見ながら把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩、外出、家事、歌がお好きな方、それぞれに合わせて、対応させてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出はその人その人に合わせて行っている。志和口に住んでおられたターミナルケアの方のご自宅訪問や、カーブ観戦、呉のおかきやさん、温泉、花見、懐石料理など、それぞれに外出を楽しまれることが日常にある。	日常的に買い物や散歩に出かけ、本人の「今日行ってみたい所」への支援に、できる限り応えられています。8月には蛸を観に出かけるなど、入居者一人ひとりの思いの実現を盛り込みながら、季節に応じた外出支援に取り組まれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金については、お小遣いを事務所預かりにしており、ご本人が持っている人はほとんどいない。ただし、外出時にはお小遣いを持参し、ご本人が買いたいものが買えるようにしている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関しては、ご本人が「電話をしてください」と言われる時に、付き添い、電話をかけて、ご本人とご家族と話してもらっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、季節ごとに変化のある飾りをつけたりしている。子ども扱いしたような、折り紙の飾りや壁画は飾らないように意識している。自宅にあってもおかしくないような飾り付けをしている。	エレベーター前の空間には、職員が季節感あふれる飾りつけをされています。入居者が居心地良く過ごせる空間となるよう工夫されています。リビングには、雑誌や希望する本を置き、入居者も読書などを楽しまれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングが狭くなかなか一人ひとりの居場所づくりが難しい状況にある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、写真などご家族にもってきってもらっている。ただ、心地良い部屋づくりがまだできていないところも見られる。	居室には、写真を飾ったり、冷蔵庫を持ち込んだりする入居者もおられます。入居者が居心地良く過ごせるよう、自由にレイアウトを考えられています。備えつけのカーテンの色は、各居室で色を変えます。また、画一的にならないよう工夫されています。また、手作りの表札や家族が持参した物を居室入口に飾る入居者もあり、一人ひとり個性のある居室づくりがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	鍵をかけないケアをしている。日中は、フロア内だけでなく、建物内外の行き来を楽しんでもらうよう努力している。		

V アウトカム項目（えんどう豆）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（そら豆）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「もしも自分だったらノート」を活用し理念に基づいた月間目標を立てて、1か月に1度のミーティングで振りかえりをしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月、地域の幼稚園の園庭解放、ふれあい福祉センターのだんだんサロンにお連れしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設長が、入居者様と小学校の前で朝のあいさつ運動をしている。管理者同士が昨年末から「府中町GH連絡会」をもち、地域に向けて認知症介護の相談会をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度運営推進会議を開催している。最近、他の事業所のグループホームの管理者も参加するようになった。活動内容の報告などをして、ご家族から出た意見など運営に反映させている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	府中町は事業者懇談会を2か月に1度開催し、府中町の役場、事業所が日頃からつながりをもつように活動している。管理者もここに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入居者1名の方に関して、医師の指示と家族の強い要望があり、転倒を防ぐ目的で壁側の反対側は2本柵をしており、身体拘束の記録をつけている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全体会議にて施設長が講師で、研修を実施した。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>ユニットミーティングで管理者が研修を実施した。今、えんどう豆ユニットでこの制度を利用されている方はおられない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に重要事項、契約書を本人様、家族様に説明を行い、疑問点もお伺いしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時には本人様の様子をお伝えして話しをお伺いしている。6か月に1度のカンファレンスにおいても、話しを聴かせて頂き、プランに活かしている。</p>		
		<p>○運営に関する職員意見の反映</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	常日頃、話しは聴いており、1年に1度のスタッフ全員面談、6カ月に1度の考課面談を実施している。スタッフ全員の意見をくまなく反映はできていない。このため、8月は1か月をかけて、自己評価面談を実施中。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働時間は改善傾向にはあるが、入居者様の対応にて定時で終わることは難しい。法人にて、研修会、勉強会などがあり、向上心がもてる環境とはなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の全体会議、外部研修にも頻繁に参加してもらっている。法人内では、ケアマネ勉強会、介護福祉士勉強会などもあり、皆で勉強をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者が府中町グループホーム連絡会に参加しており月に1回、会議を開催。本年度は、合同研修、入居者様スタッフ参加の合同七夕会、スタッフ交換研修などこの1年はかなり活発に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者対応が一番大切であり、最初の関わりはとてども大事にしている。積極的に話しを聴きながら、好きなことに着目して対応している。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にはご家族の思いを聴きとり、面会時には特に話し合いの場を多くもつようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族やご本人に思いを聴きながら、その時、その時に必要なことをさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事などをして頂いたり、買い物には毎日付き添ってもらったり、洗濯ものを干して頂いたり、それぞれに役割を持って頂いているが、すべての入居者様に出来ているわけではない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	行事前にはご家族に連絡して、来て頂いたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	昔から通っておられた美容院へ行かれたり、馴染みのスーパーに通ったりしている。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	えんどう豆ユニットの入居者様とそら豆ユニットの入居者様とで仲のよさそうな方同士でお話してもらえそうな支援をしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた後もご自宅へ伺い、仏壇に手を合わせたりしながら、ご家族の話を聴いて、グリーフケアをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式のアセスメントにより、よりご本人の気持ちに添いながら、把握することに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴などをお聴きするだけでなく、面会時にもご家族から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日その日の変化を観察し、その方に合わせた生活が送れるように対応している。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当スタッフが本人様のアセスメント作成、計画作成者が家族側の意向も含めケアプラン作成をしている。ユニット会議で話し合いの場をもちはじめた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	モニタリングは計画作成者が行うが、スタッフ全員が記録した日々の記録を活かしつつ行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同じ施設の中に特養、デイサービスなどがあり、フロア内を行ったり来たりすることも出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	小学校の挨拶運動を日課にされている方もおられる。地域の公園に散歩に行かれていた方とは、地域の公園に散歩に行ったりと、入居前の地域資源と切れないように心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎週金曜日に主治医の往診がある。グループホームの看護師より入居者の方の状況をお伝えしている。		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	変化や異常があれば、すぐに報告し、適切な指示をうける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、スタッフ看護師がお見舞いに行ったり、病院相談員と管理者が常に連絡をとり、状況把握し、退院が出来るように働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの体制は整えている。現在は、そら豆ユニットには看取りには方はおられない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	初期対応の訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	2, 3か月に1度、避難訓練をしている。また、食事委員会では、備蓄品などについて検討している。さらに、入居者の方のお身体の状態、避難順位についてはスタッフルームに設置してある。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	自分なら聞かれないことは大声で言わないなどごく基本的な事でも日々、注意し、失礼のないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の要望、希望はなるべく生活の中に取り入れるよう、努力している。何が食べたいか、どこへ行きたいかなど、日常の支援の中で聞きとり、実現するよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた生活を支援していくことについて努力しているが、まだまだ出来切れていない場面も見られ、課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	おしゃれがお好きな方が多いので、髪を編んだり、マニキュアをさせていただいたり、また、着る物が汚れやすい方については、その都度、着替えをさせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しみなものになるようにメニュー決めから準備までを一緒に行う。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量、飲み物の量は常に意識している。好きな飲み物を飲んで頂いている。生活記録表に飲まれた量などを記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ユニットケアでは、必ずしも1日3回の口腔ケアではなく、その人の習慣に合わせた口腔ケアをするようにということで、夕食後だけの方も居れば、毎食後の方もおられる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	4月よりトイレ委員中心に布パンツ中心にするようにしている。現在、日中夜間ともリハビリパンツの方は1名、夜間のみの方は1名となった。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩をしたり、いも、ヨーグルト、バナナを多くとってもらうようにしている。なるべく、薬に頼らないようにトイレ委員を中心に努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お風呂は2日に1回とか、3日に1回とか、声をかけて、相談して、入られるようであれば、入ってもらっている。		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	もともと、起きる時間、寝る時間はその方に合わせて支援している。夕方くらいから帰りたくなったり、不安になられたりする方もいるが、その都度お話しして、落ち着いて頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ユニット内本人様のファイルに薬事表が綴じられている。スタッフはそれを見ながら把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	散歩、外出、家事、歌がお好きな方、それぞれに合わせて、対応させてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出はその人その人に合わせて行っている。志和口に住んでおられたターミナルケアの方のご自宅訪問や、カーブ観戦、呉のおかきやさん、温泉、花見、懐石料理など、それぞれに外出を楽しまれることが日常的にある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金については、お小遣いを事務所預かりにしており、ご本人が持っている人はほとんどいない。ただし、外出時にはお小遣いを持参し、ご本人が買いたいものが買えるようにしている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関しては、ご本人が「電話をしてください」と言われる時に、付き添い、電話をかけて、ご本人とご家族と話してもらっている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節の花を飾ったり、季節ごとに変化のある飾りをつけたりしている。子ども扱いしたような、折り紙の飾りや壁画は飾らないように意識している。自宅にあってもおかしくないような飾り付けをしている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	そら豆ユニットは共用空間が多少広いので、後からスタッフがソファを買ったり、マガジンラックを買ったりして、居場所づくりをしている。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	馴染みの家具、写真などご家族にもってきってもらっている。ただ、心地良い部屋づくりがまだできていないところも見られる。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	鍵をかけないケアをしている。日中は、フロア内だけでなく、建物内外の行き来を楽しんでもらうよう努力している。		

V アウトカム項目（そら豆）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム府中みどり園

作成日 平成 25 年 11 月 8 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	家族の参加できる行事が少ない。家族会がない。	家族の思いの把握ができる場面づくりをする。	・年間計画の中に家族参加の行事を増やす。 ・家族あての通信を作成しなおす。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。